

「転んで骨折」予防パンツ

レース使っておしゃれに



「ピーチパン」の完成品を開発協力者と点検する松本富子さん(写真中央) 東京都内で

「大腿骨頸部 転倒骨折

軽減用パンツ ピーチパン」は東京都板橋区のデザイナー松本富子さん(49)が都立産業技術研究所と共同で、工業デザイナーの協力も得て開発中だ。こちらも女性用で価格は9900円(税込み)。今月中の発売をめざす。

松本さんは大手メーカーで下着デザインを担当したあと独立。義母の介護を経験して高齢者の下着を研究するようになり、4年前に開発を始めた。

やはりプロテクターを目立たなくする工夫をし、腰部分のポケットに約15mmの高密度発泡ポリエチレンを入れた。70代の平均的な体

形のマネキンを使い、プロテクターを着けても体の線がきれいになるよう修正を重ねた。

こだわったのはレースを使い、おしゃれにした点だ。介護施設や「おばあちゃんの原宿」として知られる東京・巣鴨で高齢者の話を聞いて回り「温泉で人に見られても恥ずかしくないものでなければ」という声を聞いたからだ。

パンツの開発には父への思いもある。父は1年前、久々に出かけて路上で倒れ、たんを詰まらせて80歳でじくなつた。その前にも何度か転倒していたため、周りの人から「危ないので外出しないように」と言われ、閉じこもりがちだった。松本さんは「ピーチパン

をはいてもらえば、ふだんから外出し、歩行能力が衰えていなかったかもしれない。父への恩返しのため、多くの人を助けるパンツを作りたい。

厚生労働省の研究班などの調査では、大腿骨頸部の骨折は、女性が男性の4倍近く多い。原因は単純な転倒が4分の3。閉経期を境に急増しており、骨粗鬆症の影響とみられている。

今井さん、松本さんとはとも、いずれは男性用も開発したいという。「ほねガード」の問い合わせはナイガイ(03・3293・7151)。「ピーチパン」の詳細はhttp://www.geocities.jp/simido_tomi/index.html

寝たきり防ぐ
対策の一つに
慶応大学の里宇明元教授

の話 介護が必要となった人の原因は「脳血管疾患」「衰弱」に続いて「骨折・転倒」が多く、全体の12%を占める。医療・介護費につながるため、骨折予防は社会的にも大きな課題だ。新しく登場した製品は骨折予防効果に加えて、はきやすさとデザインの高さもあり、寝たきりになるのを防ぐ対策のひとつとして期待できる。